

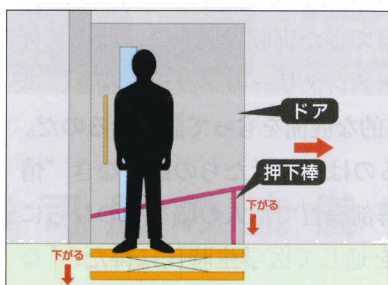
展示場で出会った 「電気のいらない自動ドア」

自動ドア＝電動。そう思っていないだろうか。その常識をくつがえすのが、(株)有紀の「オートドアゼロ」だ。

同社社長の橋本保さんは、管工機材を扱う会社で25年勤めた後独立。サラリーマン時代の経験を生かして、管工機材の販売などを手がける(株)日伸、住宅リフォームを行う(株)テクノリフォーム、そして環境商材を扱う(株)有紀を次々と立ち上げた。

環境商材を通して社会貢献を目指す(株)有紀では、設立当初、桐の不燃化に取り組んでいた。燃えない木材は防火対策に大きな力を発揮する。しかし、不燃液を注入する工法のため、どうしても原価率が高くなってしまった。

「今後の事業展開について壁にぶつかっていた時に展示場で出会



人が踏み板上立つと、踏み板が下がり、踏み板と連動している押し下げ棒が下がる力でドアが開く。スムーズな開閉に、電動ではないと気付かない人も多いとか



会津若松市内のアンテナショップにも設置されている

ったのが、踏み板を踏むとテコの原理で開く『電気のいらない自動ドア』です。まだ試作段階でしたが、その可能性の大きさに『これだ!』と思いました」と橋本さん。

とはいえ、踏み板は10cmという高さで、開き方もギクシャクと、その段階では、製品としてとても世に出せる状態ではなかった。

そこで、発明者に共同開発を提案。その可能性を信じ、橋本さんは、10数個あった問題点を一つずつ解決していった。その苦労は並大抵ではなかったが、努力のかいあって2009年に特許を取得し、製品化した。

ランニングコストは一切かからず、構造もシンプルでメンテナンス性も高い。よいことづくめの「オートドアゼロ」だが、普及はとんとん拍子にはいかなかった。

「環境が大事といっても、なかなかお金を投入するまでにはいかない。当初は、展示会に出品しても冷やかな反応でした」

東日本大震災で 社会の意識が変わった

潮目のがらりと変わったのは、3.11以降だ。計画停電も実施され、「停電でも安心」といううたい文句が、がぜん説得力を持ち始めた。

「それまではお題目のようなものだった節電が、切実な問題としてとらえられるようになった」

昨年、「オートドアゼロ」はリニューアルし、新たに特許を取得。開閉がよりスムーズになり、メンテナンス性も向上した。

現在、同商品は、全国で112台設置されている。設置場所も、役所、デパート、企業、大学、病院、飲食店と多彩だ。手薄だった中国地方や九州にも、メンテナンス会社と提携し、進出し始めている。

目標は、国内の自動ドアの年間生産台数12万台の10%を占めること。「まずは3年後までに1%、1,200台を目指します」。

橋本さんが展示場で感じた可能性は、いましっかりと像を結び、着実な実績につながっている。



代表取締役社長の橋本保さん。販売代理店と組んで、海外進出する計画も進行中

メンバー訪問

福島県

安全・安心・無電源を実現した 自動ドア「オートドアゼロ」

(株)有紀

■事業所名：(株)有紀 ■所在地：〒965-0053 福島県会津若松市町北町大字上荒久田字宮下 63
 ■TEL：0242-39-2308 ■FAX：0242-32-1274 ■設立：2001年4月 ■代表者：橋本保 ■従業員数：8名
 ■事業内容：環境・安全配慮商品の製造・販売 ■URL：http://www.yuki-s.jp/ ■mail：info@yuki-s.jp